

表在型食道がんに対する内視鏡治療後の疼痛に関する研究

1. 研究の対象

2023 年 4 月～2024 年 1 月に当院で表在型食道がんに対する内視鏡治療を受けられた方

2. 研究の概要

研究期間: 総長の研究実施許可日～2028 年 3 月 31 日

研究の目的: 現在、表在型食道がんに対する標準的な治療として、内視鏡治療が広く一般に実施されています。内視鏡治療における偶発症として、切除に伴う出血(0.2%)、食道穿孔(1.9%)、切除後の瘢痕性の狭窄(6.0～16.7%)などがあげられますが、頻度が多い治療後早期の症状としては痛みがあり、出現頻度は 58%との報告があります。痛みは、日常生活にも影響を与えることがあり、対策が必要ですが、現在、疼痛の特徴や危険因子、適切な疼痛緩和法などは十分に解明されているとは言えません。本研究では、表在型食道がんに対する内視鏡治療後の疼痛の特徴(疼痛継続期間、危険因子など)やその対策(鎮痛薬の効果)について検討することでより良い治療につなげることを目的としています。

研究方法: 研究対象者の方の電子カルテから ID、患者名などを除いた匿名データを集積し、後ろ向きに調査します。データ収集項目は、患者背景(年齢・性別・飲酒・喫煙歴等)、病変背景(部位・大きさ・肉眼型・深達度・病理組織等)、内視鏡治療結果(治療方法、切除時間、穿孔有無、筋層損傷有無等)、治療後実施した疼痛に関するアンケート、血液検査データ、熱型表、投薬内容です。治療翌日飲水後、治療 2 日目、3 日目の疼痛を NRS(Numeric Rating Scale)で確認し、上記患者背景、病変背景、投薬内容などから疼痛のリスク因子、鎮痛薬の投与による改善の有無などを評価します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

大阪国際がんセンターの電子カルテ、及び患者さんに行ったアンケートから情報を収集します。情報収集項目は、上記の通りです。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪国際がんセンター 消化管内科 田邊 元太郎

住所: 〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話: 06-6945-1181

研究責任者：消化管内科 加藤 穰

-----以上